

2016 年度プリプレス研究会研究例会

# カラーマネジメント最前線

～色を制して新たなビジネスに繋げる～

主催：(一社)日本印刷学会 技術委員会 プリプレス研究会

日時：2016 年 11 月 25 日(金)10:25～17:45(受付開始:10:00)

会場：コニカミノルタジャパン株式会社 浜松町セミナールーム (最終頁に案内図)

〒105-0023 東京都港区芝浦 1-1-1 浜松町ビルディング 26F

## プログラム

10:25～10:30

開会ご挨拶

プリプレス研究会主査

10:30～11:30

### 1. 色で変わる×色で変えられる広告効果

都外川 八恵(COCOLOR)

色の正体は光であり電磁波。モノは言わねど、それぞれの色ごとに固有の波長を持ち、固有の波動を発している。そして、知らずのうちには人の気持ちと行動を強力に揺さぶっている。そう、色は業種、業界、国境をも越えた強力なメッセージであり、コミュニケーションツール。電磁波の種類によってその働きが変わるように、ビジネスの「目的」や「用途」に応じて色の波動も至極当然使い分けるべきなのである。

感覚や感性、センスの世界だと思われがちな色の世界にも当然ロジックがある。10人いたら7人に伝わる色のメッセージは少なくとも同じ人間なら共通しているし、10人中、7人に「素敵！」と思ってもらえる配色には「理由＝ロジック」がある。

ここでは、色が持つ働きについてもう一度考察し、色の効用効果やメッセージ、働きについてもう一度触れてみたい。そこで、改めて「どう」「どのように」色を用いれば人の「気持ち」を変え、「行動」を変え、「売上」を変えられるのかについて考えてみたい。

11:30～12:30

### 2. カラーマネジメントの基礎知識

大橋 彰(富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ(株))

昨今、カラーマネジメントという言葉は一般的なものとなり、一般の方でもプロの印刷会社と同じような対応が出来るソフトやツールが、安価で入手できる時代となった。しかし私たち印刷業界では、「色校と合わない」、「思っていた色と違う」、というような、色に関するトラブルを日々抱えて業務を行っている。

デジタル印刷機やプリンタでは、適切な設定とキャリブレーションにより色調管理されているが、本当に正しい色で出力されているかを判断するには、数値管理による次工程保証が重要である。

また、オフセット印刷では各種認証制度により、濃度やドットゲイン管理の重要性が浸透してきたが、それらが変動する要因を突き止め、資材・機器の状態を正しく保つことが真の品質管理につながる。

本講演では、アナログ～デジタルデバイスが混在する環境で、適切なカラーマネジメントを行うための方法と、メリット・課題について説明する。

- ・JapanColor は皆同じ色？JapanColor 認証制度の普及と G7、PSO 認証について
- ・メタリズム ～外校運用での色校正の課題
- ・カラーマネジメントがもたらすコスト効果

< 昼 食 >

13:30～14:30

### 3. Inkjet プルーフの最新技術

竹下 祥文(GMG ジャパン(株))

インクジェットプルーフ製品の現状と問題点を解決する、GMG のコア技術。分光スペクトルで管理し、特色を含むオーバープリントも再現可能で、紙器は勿論、グラビア・フレキソ印刷など軟包装用途でも活用できる、GMG 「OpenColor」の最新技術をご紹介します。

1. 一般的な ICC プロファイルベースの色変換の仕組みと問題点  
版としての情報が継承されず、品質はレンダリングインテントに依存
2. GMG インクジェットプルーフ製品の概要とコア技術  
GMG ColorProof(連続階調プルーフ)と GMG DotProof(網点再現プルーフ)  
(ア) MX デバイスリンクプロファイルの色変換  
レンダリングインテントを指定せず CMYK から CMYK にダイレクトに変換  
版情報を保持し、色と階調の両方を高品位に再現  
(イ) 強力なキャリブレーション機能  
キャリブレーション専用のプロファイルを使用して、プリンタの経時変化によるブレを徹底的に補正
3. 従来のインクジェットプルーフの現状と問題点  
CMYK + 特色のオーバープリント、特色 + 特色のオーバープリントの再現は非常に困難
4. GMG OpenColor の特徴  
全ての色を分光スペクトルで管理し、特色、CMYK 問わず、オーバープリントの正確な色予測を可能にするソリューション  
(ア) GMG OpenColor プロファイルの作成手順  
印刷方式、メディア、分光測色値、刷り順、プルーフ出力条件の指定によるプロファイル作成  
(イ) GMG OpenColor の技術仕様  
ハードウェア構成、ソフトウェア構成、対応プリンタ、対応メディア、対応測色装置、システム構成

14:30～15:30

### 4. 包装材におけるカラーコミュニケーションと特色の色管理

岡松 英二(ビデオジェット・エクスライト(株))

商業印刷の分野では ISO12647 による国際的な印刷の標準化が進み、JapanColor をはじめとする認証制度や、ICC プロファイルの仕組みをはじめとするカラーマネジメント手法の浸透により、多くの印刷現場で数値による色管理手法が利用されている。

一方、包装印刷の世界では、基材のタイプや印刷方式のバリエーションが多いことや、特色インキの使用されるケースが多いことなどの理由により数値化による色管理は大きく遅れており、まだまだ目視による色の評価・管理が一般的のように思われる。

X-Rite PANTONE では、特色の色指定としてグローバルのデファクトスタンダードとして使用されている PMS (Pantone Matching System) を中心として、クラウドベースによる包装印刷向けの色品質の管理・コミュニケーションのフレームワークである PantoneLIVE を提唱し展開している。

今回、この PantoneLIVE における色管理とコミュニケーションの仕組みを説明するとともに、そこで利用されるツールなどを紹介する。

また、あわせて包装印刷の測色やカラーコミュニケーションの際に気をつけなければならない基礎的な知識や便利なツール等を紹介する。

< 休憩 >

15:45～16:45

## 5. ソフトプルーフの現状報告

山口 省一 (EIZO(株))

ソフトプルーフ(モニタープルーフ)自体は適切なモニターをキャリブレーションしてアプリケーションソフトを正しく設定することで実現される。国内外で複数のベンダーからソフトプルーフシステムが提供されているがこれらのシステムの表示精度を第三者が客観的に評価し適合性を認証する制度は多くない。米国の IDEAlliance は 2008 年に認証を開始、ドイツの Fogra も 2009 年に認証を開始した。この二つの認証システムは目的が異なるため要件が異なっていたが、2015 年に ISO 12646:2015、ISO14861:2015 が発行され両者の要件がほぼ同じになり、ディスプレイ自体への要求事項とシステムへの要求事項が明確化された。これらは印刷に対するソフトプルーフの現状だが、コンテンツのマルチユーズによる多様化したメディア間のカラーマネジメントに関してもモニターを使ったソフトプルーフが有効である。導入事例を交えながらこれらを解説する。

16:45～17:45

## 6. デジタル印刷機における色再現技術の最新動向

～多色機の増加と多様な材料～

宮本 泰夫 (株)バリューマシーンインターナショナル)

近年、デジタル印刷システムにおいても多色の印刷システムを備える機種が増加している。

プロセスカラー以外の色材の役割として、ゴールドや蛍光色など加飾を目的としたもの、ホワイトによる透明基材やカラー原反への印刷、さらには MICR など産業用途向けなどが提案されており、これまでにない幅広い用途が期待される。これはデジタル印刷システムが単なる小ロット印刷のみならず、印刷商材の高付加価値化や特殊基材への印刷を可能とするなど新たなアプリケーションへのチャレンジと見ることができる。本セミナーでは、こうした多色化が狙う新たな市場について解説するとともに、具体的にはどういった印刷商材への展開が可能となるのか、新たな可能性について議論する。

定員：70名(定員になり次第締切)

参加費：会員・協賛会員9,000円, 非会員12,000円 参加費は当日会場受付でお支払ください。

申込方法：日本印刷学会のホームページのフォームからの参加登録をお願いします。本シンポジウムを選択してお申し込みください。E-mailまたはファックスでも結構です(氏名, 所属, 連絡先, 会員の有無を記入ください)。

連絡先：(一社)日本印刷学会 事務局

〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8 日本印刷会館内

電話:03-3551-1808 FAX:03-3552-7206 E-mail:nijspst-h@jspst.org

お断り：事情によりプログラムまたは講師を変更する場合があります。

## コニカミルタ ジャパン株式会社

### 本社(東京浜松町)のご案内

所在 〒105-0023 東京都港区芝浦 1-1-1  
浜松町ビルディング 26F (受付)

6 通路の先がロビーになります。  
エレベーターで26F総合受付へお越しください。

5 ここが建物の入口になります。  
左方向にお進みください。

4 このような場所に出ます  
(上にモノレールの高架があります)ので、  
矢印の方向へ直進ください。

3 通路(渡り廊下)をそのままお進み下さい。  
途中、東京ガス様や屋形船等がありますが、  
そのまま道なりにまっすぐ階段を降りるまでお進み下さい。

2 通路(渡り廊下)になりますので  
そのまま道なりにお進み下さい。

1 JR浜松町駅の南口(モノレールはJR改札前まで一旦お越し下さい)  
をそのまま直進ください。突き当たりを左方向です。

浜松町ビルディング (東芝ビルディング)

東芝浜松町ビル

浜崎橋 JCT

東京ガスビル

JR浜松町駅南口

世界貿易センタービル

都営大江戸線 大門

B2